

8月6日に生まれた者として

山王中学校 大畑 志帆

8月6日は私にとって、とても嬉しい日です。なぜなら、私の誕生日だからです。家族や友達、多くの人がお祝いしてくれて、笑顔の花が咲く幸せな日です。その一方で、8月6日は広島に原子爆弾が投下された日でもあります。私の幸せな記念日は、日本にとって不幸な記念日なのです。

私が毎年、8月6日を迎えて思うことは、「嬉しい」ということです。しかし、その日にテレビをつけると特集されているのは原爆のこと。キノコ雲に、川を埋める死体。皮膚はゾンビのようにドロドロに溶けて垂れている姿を目にしました。はじめてその光景を見た時に受けたショックはとても大きかったです。毎年そのショックを繰り返し、「果たして私は今日、幸せに過ごしてしまっ、素直に誕生日を祝って良いのだろうか。」と思うようになりました。

原爆によって亡くなったのは、およそ21万人。亡くなった人だけではなく、放射線による後遺症に苦しむ人も多く、原爆によって失われた笑顔は数えきれません。当たり前過ぎていく今日を、普通に生きていただけなのにその当たり前の日々は一つ、原爆によって失われてしまったのです。失われたからこそ分かった、原爆の怖さ。様々な人の不幸が重なる日だから、私は素直に喜んで良いのかという風に思ってしまったのです。私が過ごしてきた8月6日を「平和」とするならば、1945年、原爆が落とされた8月6日は「平和」とは言えないでしょう。8月6日に限らず、全ての生きたかった人にも誕生日が迎えられ、幸せを噛みしめられる、そんな日が一日でも訪れることが「平和」の一つなのではないでしょうか。

いわば私にとって8月6日は幸せと不幸の隣り合わせ。その不幸を未来に繋げていくことが、私に与えられた使命なのかもしれません。

1964年の東京オリンピックでは、聖火リレーの最終ランナーを坂井義則さんが

務めました。この方は、広島に原爆が投下された1945年8月6日に、広島で産声をあげました。坂井さんが走ることは、日本でオリンピックを開催するにあたって、世界に伝えたい「平和」への願いなどを、誰よりも訴えることができたと思います。坂井さんが8月6日に生まれてきたことは、先人から「平和」を託されたのかもしれませんが。私は坂井さんのような影響力はないと思いますが、8月6日に生まれた者として、「平和」を願う一人として、自分なりに「平和」な世界に近づける努力をしていきたいです。

「平和」な世界に近づけるためにはどうしたら良いか。そもそも平和の定義は人それぞれだし、戦争がないから平和だということは一概に言えないと思います。戦争が終わっても、家も大切な人を失った心の痛みは消えないと思うからです。

人によって、色々な「平和」があると思いますが、私は幸せを感じられることが平和だと考えます。誕生日が8月6日であることは被爆者の気持ちを考えると心が痛みますが、幸せを噛みしめられることが平和だということを、8月6日を通して学べたような気がします。幸せのためには、戦争について知ること、発信すること。悲惨さを知ること、争いが起きた時の対応が変わるかもしれません。また、今の当たり前の日々の幸せにも気付くことができます。そして発信すると、その輪が広がっていきます。

私は幸せと不幸の板挟みとなる8月6日産まれだからこそ、行動していきます。それが世界の幸せになることを信じて。